

岩手県学童保育連絡協議会の、 支援の取り組みの報告

佐藤 千秋

岩手県学童保育連絡協議会研修部 花巻市・矢沢学童クラブ 指導員

初動の遅れと迷い

震災当時、岩手県内全域が停電となり、内陸でも復旧に四日を要した所がありました。岩手県は広いため、沿岸の地区に行きたくても、燃料不足から移動手段がない、職場も混乱、新年度で新入生が入所……。いろいろな状況が重なり、初動が遅れてしまいました。物・情報・燃料の不足、続く余震による停電。沿岸の地区の状況も、なかなかつかめませんでした。

き、本音で話し合えたことは大きな収穫でした。
動き出した支援

一月月に開催された県連協の研究会では、分科会のテーマの一つに「被災について」が設けられ、現地から現状の報告がありました。

その中で、「直接、学童に保育支援の申し込みがあったため、同じ学童に支援が集中したことがあった」などの状況が報告され、指導員の疲労が訴えられるました。この時、必要とされていることは何かという課題の答えが、少しずつ見えてきたような気がします。

この後、私たちは、支援における五つの柱を確立させ、動き出すことができました。

①各研修への参加の補助

「一緒に学びたい」「みんなに会いたい」「現状を伝えたい」という現地の

夏の合宿研修会で教えられたこと

「内陸では普通に進めてほしい」という沿岸の地区の指導員からの声をいただき、二〇一一年の研修部の活動が始まりました。

しかし、震災後に初めて行われた八月の合宿研修会では、テーマや内容をどうするか、迷いました。相談の結果、震災のことにはふれないこととし、案内を出したところ、「今までと変わらない内容に失望した」との声が寄せられました。急ぎよ、閉会式で現状報告を行いました。おおいに反省する研修会でした。

これを受けて、九月、研修部の指導員が陸前高田市と大船渡市を訪問し、現地の指導員に集まってもらって現状と今後のあり方について忌憚のない意見を出してもらう場をもちました。遠慮していた私たちも、まぢがいに気づ

声を最大限に実現させようと、二〇一一年度のすべての研修の参加費を補助し、交通手段の確保を手配しての支援が始まりました。

これにより、全国学童保育指導員学校・東北会場（会場：宮城県）、全国学童保育研究会（会場：石川県）、県連協主催の学童保育研究会（会場：岩手県立大学）に参加してもらうことができました。

②保育支援のコーディネート

「現地の要望」と「保育支援する側」との間にかみあわない部分も出てきたため、現地の希望を受け、二〇一二年一月からは、前もって支援が必要な日の希望をとり、対応できる方がいれば依頼する方法をとることとしました。

むずかしいのは県外からの支援です。申し出はありますが、日程や場所を指定しての申し出があり、必要としない所が指定された場合、調整に苦慮することが今でもあり

ます。

③指導員の心のケア

指導員・保護者へのアンケートの結果から、心のケアが求められていることが分かりました。岩手県臨床心理士会にお願いし、二月から二名のカウンセラーを現地に派遣してくれることになりました。送迎にはNGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの協力があり、三月までに合計一〇回の派遣が実現しました。

④沿岸の地区を対象に研修会を開催

二月六日、沿岸の学童保育を対象とした研修会を開催しました。全国学童保育連絡協議会副会長の河野伸枝さんを講師とし、陸前高田市と大船渡市の指導員がほぼ全員参加し、学ぶことができました。

河野さんのお話に涙し、午後から行われた現場実習では、「保育のヒントをもらった」という声が多く、寄せられました。

⑤NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの協力体制

県連協が現地の支援を行うことに際し、NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの連携は大きな力となりました。二〇一一年一〇月からは、月に一回、県連協との間で定期的に情報交換会を開催し、現状報告と翌月の協力点について確認しあっています。これは、二〇一二年度も継続していく予定の大切な場です。

今後の課題

現地のニーズに沿った支援を長いスパンで続けていくためにも、いくつかの課題があります。

◆県連協内で支援チームをどう組織していくか。

◆現地が必要とする時に保育に入れる指導員を雇用すること。

◆現地の「今」を的確に知り、「必要

な要望」を把握するために定期的な訪問を行うとともに、声を聞く場とそのためチームづくり。

◆他県や他団体と連携を図り、協力体制を整える。

◆県連協に加盟していない地域への支援をどうするか。

また、現地では、全壊した後、再開に向けて動き出している学童保育や、新親の学童保育が開設される動きもあります。これらが、二〇一二年度中に実現できるよう、援助していきたいと思えます。

*

*

*

これまで、本場に多くの全国の方々から、支援をいただきました。先に紹介した県連協の活動には、みなさんからの支援によって実現できたものが数多くあります。あたたかな気持ちにふれ、心から感謝申し上げます。

迷いながら、手探りで支援だった一年。岩手の本当の支援はこれからだ

と認識しています。県連協でも、半専従の職員がやってみつかり、新たな支援も歩き出そうとしています。末永い応援を今後ともよろしく願っています。

* 皆さんから寄せられた東日本大震災学童保育義援金は3月末現在、30,800,288円となりました。ありがとうございました。現地の連絡協議会と相談しながら、学童保育の支援に活用しています。

[東日本大震災学童保育義援金の振込先]

- ・銀行コード：0005 店番：351
- ・三菱東京UFJ銀行 本郷支店
- ・普通預金 0012273
- ・全国学童保育連絡協議会 代表 木田保男